

巻頭言

比較日本学研究センター長

森 山 新

1999年度に大学院博士後期課程に国際日本学専攻が設立され、国際日本学シンポジウムが開催されることで本格化した本学の日本学研究は、2004年度に本センターが発足されることにより一段と研究に深みと幅を増してまいりました。それも4年の歳月が経ち、一昨年度に本学が「魅力ある大学院教育イニシアティブ：〈対話と深化〉の次世代女性リーダーの育成をめざして」に採択されたのに引き続き、本年度は大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」が採択されたことにより、国際的な日本学の研究、教育のネットワークが着実に形成されていることが実感された1年となりました。

昨年度、日本学研究の盛んな海外の諸大学とともに結成された「国際日本学コンソーシアム」は、今年度は米国の協定校、パデュュー大学を加え、8大学合同で第2回が開催されました。このコンソーシアムはこれまでの国際シンポジウムとはやや性格を異にし、「国際ジョイントゼミ」を核として進められているもので、次世代のリーダーたる大学院生に研究発表の機会を提供する研究の世界的ネットワークだけではなく、研究者育成のために教育指導の世界的ネットワークを提供するものです。また一昨年来、韓国、中国、チェコ、台湾、ロンドンなど世界の大学・研究機関と行われたジョイントゼミは、今年度は2007年10月に北京、2008年度1月にパリにて開催されました。北京でのジョイントゼミでは、中国・北京日本学研究センター、韓国・同徳女子大学、そして本学の3大学・3か国のジョイントとなりました。またパリ第7大学とは昨年、協定が締結され、さっそくのジョイントゼミ開催となりました。さらに国際的な研究、教育の場を日常的に提供するために、テレビ会議システムを用いたジョイントゼミや公開講演会の開催も実施されました。

また従来から続いてきた「国際日本学シンポジウム」も今回で第9回を数え、国内外の著名人をお迎えし、多くの方々にご参加いただきました。

研究プロジェクトも日本学各分野の研究プロジェクトが進行中です。グローバル時代を迎え、日本学研究もまた、グローバルな視点が求められつつあります。それだけに今年度の世界的な研究・教育のネットワーク発展の基盤をこれからも引き継ぎ、さらに発展するセンターとなっていくために、これからも皆さまの、ご理解、ご協力を心からお願い致します。